

2019年度（第2年度）

リスクアセスメント 実践研究会

経験・実績豊富な一流講師の指導と
異業種メンバー（製造から流通・販売まで）との情報交流により、
リスクアセスメント手法を実践的に活用し、
リスク対策を向上させる！

主な研究テーマ （詳細はp.4～6をご参照ください）

- ◆製品等の開発段階におけるリスクアセスメント
- ◆事故情報に基づくリスクアセスメントと
市場措置判断
- ◆流通視点で見る消費者安全対策

研究会指導講師 （五十音順・敬称略）

〔主任指導講師〕

伊藤 淳（日立アプライアンス株）※1）

〔指導講師〕

市川 敏夫（キヤノンメディカルシステムズ株）

久保田 享（株豊田自動織機）

澤田 勝（パナソニック株）

根津 幸宏（東芝テック株）※2）

三本 利幸（株タスク）

●上記の指導講師に加え、テーマにより外部から
講師をお招きします。

「経済産業省製品安全対策優良企業表彰」の
受賞企業の所属講師2名も指導にあたります

※ 1）平成 19 年度（2007 年度）経済産業大臣賞受賞
平成 27 年度（2015 年度）商務流通保安審議官賞受賞
平成 29 年度（2017 年度）技術総括・保安審議官賞受賞

※ 2）平成 21 年度（2009 年度）経済産業大臣賞受賞

参加のすすめ

消費者庁に報告された、消費生活用製品における重大製品事故の様子が、インターネットで公表されていますが、それによると、ここ数年の事故件数は800件台で下げ止まり状態にあり、なかには事故件数が増加している製品もあります。事故件数が増えているものには、ノートパソコン・スマートフォンの内蔵リチウムイオンバッテリーからの発火、太陽光発電機器の初期不良及び経年劣化が挙げられています。

一方この現実、リスクアセスメント実践研究会にとっても、対岸の火事ではありません。

といいますのは、リスクアセスメントはただ実施すれば良いというものではなく、その手法が重要であり、事故を減らすには、新規製品に潜む固有リスクや経年劣化リスク等にも的確に対応できるものでなければならぬからです。だからこそ、研究会ではリスクアセスメント手法の開発やブラッシュアップを主要な研究テーマの一つにしているのです。

前述のインターネットで伝えられる事故件数の下げ止まっているのは、使われているリスクアセスメント手法がその目標に適したものでないことが一因かも知れません。

当研究会は2018年に発足した新しい研究会ですが、製品の製造・輸入事業者、流通事業者及び販売事業者の方等多様な業種・業態から、消費生活用製品から医療、工業用等多様な製品を扱う人たちが集まり、そこでテーマを見つけ、似通ったテーマの人がグループをつくり、リスクアセスメントを通じた安全達成のための研究を行っています。当研究会が、社会に安全・安心を提供する貴社の活動を最先端のものにする有益な場になることを確信しています。

当研究会の活動内容を4ページ以降に紹介しています。内容をお読みいただき、当研究会に参加申し込みいただけることを心からお待ちしております。

また、既に当研究会で活動されている方におかれましては、是非、継続参加をお願いしたいと思います。リスクアセスメントはその手法においてすら未だ発展途上の様子にあり、単年度の参加でリスクアセスメントの研究を終了するというのは現実的な話ではありません。

なお、リスクアセスメントの経験の有無に拘わらず参加いただけますが、本研究会の主要なリスクアセスメント手法であるPSPTA及びHHAを理解されていない方は、研究会参加後でも結構ですので当財団のセミナー「リスクアセスメント実践コース」を受講されることをお勧めします。



リスクアセスメント実践研究会
統括主査

伊藤 淳
(日立アプライアンス(株))



今年度初めて参加される方には、4冊をセットで進呈します。

ー世界に通用する製品安全リスクアセスメントシリーズー 経産省製品安全課長推薦図書

- 『R-Map とリスクアセスメント基本編』
- 『手法編（上・下）』
- 『R-Map 分析事例 100 選 ー安全設計のための事例 100 選ー』

※研究会メンバーは、定価の20%引きで購入できます。

R-Map は日本科学技術連盟の登録商標です。

リスクアセスメント実践研究会 活動内容

活動内容 ※都合により、変更になる場合がございますこと、予めご了承ください。

回	開催日 (予定)	活動内容		
		10:00 ~ 12:00		13:00 ~ 16:30
1	2019年 5月24日 (金)	オリエンテーション	研究会の説明	共通演習
2	6月21日 (金)	特別講演会 (第1回)		研究活動 (テーマ設定) ①
3	7月25日 (木)	研究活動②		
4	9月 6日 (金)	研究活動③		
5	10月18日 (金)	研究活動④		
6	11月22日 (金)	研究活動⑤		全体研究会 (中間報告)
7	2020年 1月 9日 (木)	特別講演会 (第2回)		研究活動⑥
8	2月 7日 (金)	研究活動⑦		
9	3月13日 (金)	成果発表会		17:00 ~ 情報交流会

1. 特別講演会

製造物責任・製品安全の基本的な考え方や諸手法、またはこれからの重要なテーマ、関心が高いテーマについて研究員の要望も反映しながら企画した、専門家による講演および質疑応答を行います。本年度の講演テーマ、講演者については随時ホームページで公表いたします。

【参考】過去の特別講演テーマ (実績)

講演テーマ	講演者	講演テーマ	講演者
中国の製品安全事情	新井 克氏 (株式会社損保ジャパン・リスクマネジメント)	販売事業者が取り組む商品安全推進活動 —子どものいるご家庭に届ける商品の安全を考える—	大富 慎太郎氏 (株式会社ベネッセコーポレーション)
ヒューマンエラーの抑止策	中田 亨氏 (独立行政法人産業技術総合研究所)	化学物質とリスクコミュニケーション	北野 大氏 (淑徳大学 教授)
産業事故削減に不可欠な安全技術とその潮流	前田 育男氏 (IDEC株式会社)	ISO/IECガイド51 (第3版)の解説と要点・経緯について	前田 育男氏 (IDEC株式会社)
人間の命を奪った事故〜その背後要因に迫る あなたにもある〜ヒューマンエラー〜克服できるか	関口 雅夫氏 (株式会社JRR東日本パーソナルサービス顧問)	事故調査におけるヒューマンファクターアプローチ	垣本 由紀子氏 (日本ヒューマンファクター研究所)
製品安全におけるR-Mapの重要性について —消費生活用製品向けリスクアセスメントのハンドブックの解説を含めて—	藤代 尚武氏 (経済産業省 商務グループ製品安全課 製品事故対策室長)	組込みソフトウェアと機能安全	金田 光範氏 (京都産業技術研究センター)
(社)日本サッシ協会とYKK AP株式の製品安全への取り組み	河端 茂氏 (YKK AP株式会社)	しなやかな現場力が安全を支える —新しい安全マネジメントの考え方—	芳賀 繁氏 (立教大学 教授)
「きぼう日本実験棟」開発における ヒューマンエラー対策	山口 孝夫氏 (宇宙航空研究開発機構)	リスクマネジメントのための失敗学 —再発防止と未然防止—	濱口 哲也氏 (東京大学大学院 特任教授)
ユーザビリティと安全性	黒須 正明氏 (国立大学法人総合研究大学院大学 教授)	ヒューマンエラー発生メカニズムとその対策	河野 龍太郎氏 (自治医科大学 医学部メディカル シミュレーションセンター センター長 教授)
これからのクライシス・コミュニケーション	宇佐崎 裕美氏 (有限会社エンカツ社 取締役社長)	リスクを正しく捉える・リスクを下げる現場力を引き出す	島崎 敬氏 (国立研究開発法人防災科学技術研究所)
巨大システムの安全確保における現代的課題 —原子力重大事故から学ぶ人間・組織社会と 技術システムのかかわり方—	田辺 文也氏 (株式会社システム安全研究所 所長)	<新しい領域>にたどり着く道筋を示す「創造学」	濱口 哲也氏 (東京大学大学院 特任教授)
小売業における製品安全と品質管理 —消費者、製造事業者をつなぐ小売業としての 品質管理のあり方—	北原 一氏 (株式会社イトーヨーカ堂)	宇宙機システムの安全確保 —安全かつ確実なミッション達成のために—	大賀 公二氏 (有人宇宙システム株式会社 安全開発保証部部長)
		—AI技術やIoT技術を活用したデータに基づくア プローチ—日常生活データを活用した製品安全や製品 開発へのアプローチ	北村 光司氏 (産業技術総合研究所 人工知能研究 センター 主任研究員)

2. 研究活動

ご希望の研究テーマごとに分かれ、指導講師と共に該当テーマについて深く検討、議論を行います。他企業、異業種の方との情報交流の場でもあります。安心して議論を行うため、参加メンバー・指導講師は、本研究会内での議論の内容・知り得た情報等に関し、「守秘誓約」を交します。ここでしか聴けない真摯な“ホンネトーク”ができるのは“本研究会ならでは”と言えます。

3. 成果発表会

最終月 (2020年3月13日 (金)) に、研究成果を発表していただきます。成果発表会終了後、情報交流会 (無料) を予定しております。
※2019年度の研究会にお申し込みいただいた方は、前年度 (2018年度) の成果発表会 (2019年3月15日 (金)) に無料でご参加いただけます。参加ご希望の方は、申込書にその旨をご記入ください。

■特別講演会、成果発表会だけの参加も可能です！

「特別講演会」(7月、1月) と「成果発表会」(3月) は、研究会メンバー以外の方でもご参加いただけます。詳細は随時ホームページで公表します。

〔特別講演会〕 第1回: 2019年7月25日 (木) 10:00~12:00
第2回: 2020年1月 9日 (木) 10:00~12:00
〔成果発表会〕 2020年3月13日 (金) 10:00~17:00 } at 日科技連 東高円寺ビル

【研究対象Ⅰ】製品等の開発段階におけるリスクアセスメント

この研究会の前身の R-Map 実践研究会の第 1 研究分科会の成果を踏まえつつも、R-Map 手法に捉われずに、製品の開発段階における実践的リスクアセスメントに関する調査・研究を行います。

例えば、自社のリスクアセスメント手法のブラッシュアップであるとか、あるいは全く新しいカテゴリ製品のリスクアセスメントの実践であるとか、開発段階におけるリスクアセスメントに関することであれば、全て研究の対象になります。

下図に示す PSPTA 法も、この研究会で大きく成長・発展させることができた手法の一つです。

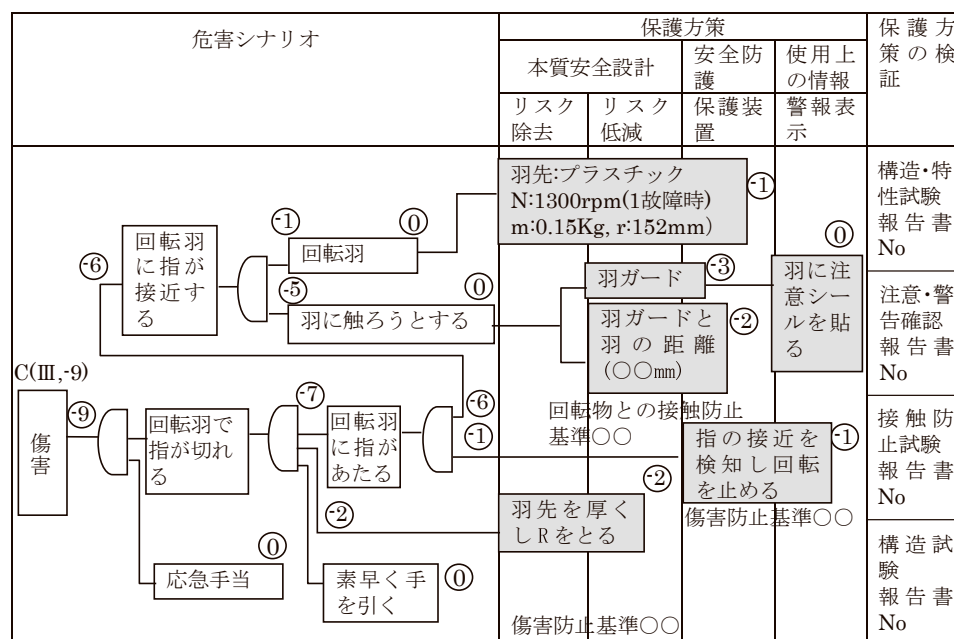


図 PSPTA によるリスクアセスメントの例

メーカーの設計や品質保証に、開発段階のリスクアセスメントに関する知識が必要であることは言うまでもありませんが、流通事業者や検査機関の方等、製品の開発に直接携わらないという方も、ステークホルダーの一員として開発段階のリスクアセスメントに関する知識を有することは、自社の優位性を築く上で極めて有用なものになるでしょう。

開発段階のリスクアセスメントの推進を担っている方、自社のリスクアセスメント手法をブラッシュアップしたい方、PSPTA 法等の実践的リスクアセスメント手法をマスターしたい方、リスクアセスメントにおけるリスク低減値を担保する試験法を作成したい方、調達品のリスクアセスメントを行いたい方、ご自分の身の回りのリスクアセスメントを行ってみたい方等、研究テーマには事欠きません。

また、近年、IoT 機器のセキュリティリスクの見える化が求められてきています。セキュリティリスクの見える化についても、この研究会で取り扱います。



〔研究対象Ⅱ〕 事故情報に基づくリスクアセスメントと市場措置判断

官庁や公的機関から公表されている製品事故情報や、企業のリコール（自主回収・改修）情報を用いて、製品事故を未然防止するための研究を行います。

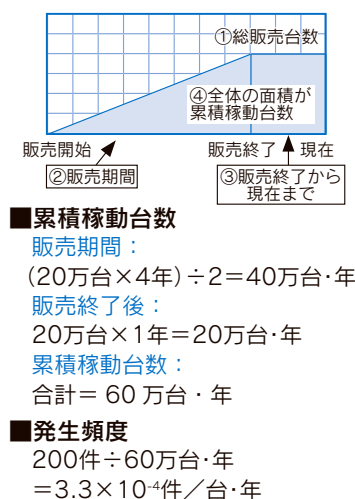
事故情報の分析結果から、リスクアセスメントがどうあるべきかを、プロセスを遡って検証していくことになりますので、リスクアセスメントの全体を俯瞰して見ることができ、普段リスクアセスメントの業務に携わっていない方にとっても、会社（または団体）内で、その成果や知見を広げられると考えております。

また、公表されている関連情報や各種統計情報などを利用することが多く、その入手方法、分析、評価手法の習得にも役立つと考えます。

以下に代表的な研究事例をご紹介します。

- 1) 実際に起きた事案から、許容されるリスクレベルか、リスク低減が必要か等、開発段階でのリスクアセスメントの妥当性を探る。
- 2) 実際に起きた事案から、製品事故を未然に防止するための最適なリスクファインディング方策を探る。
- 3) 実際に起きた事案から、傾向分析を行い、未然防止に繋げるためのフィードバックのやり方を探る。
- 4) R-Map で導出した結果と、実際にリコールが実施された（または実施されなかった）現状とのギャップを分析し、あるべきリコール判断基準を探る。

事例：発売開始より4年間で20万台を販売し、その後販売は終了して1年経過。
販売開始より現在まで、不具合が原因で200件の重傷事故があった。



発生頻度	(件/台・年)	頻発する	C	B3	A1	A2	A3
5	10^{-4} 以下	頻発する	C	B3	A1	A2	A3
4	10^{-5} 以下	しばしば発生する	C	B2	B3	A1	A2
3	10^{-6} 以下	時々発生する	C	B1	B2	B3	A1
2	10^{-7} 以下	起りそうにない	C	C	B1	B2	B3
1	10^{-8} 以下	まず起り得ない	C	C	C	B1	B2
0	10^{-9} 以下	考えられない	C	C	C	C	C
			無傷	軽微	中程度	重大	致命的
			なし	軽傷	通院加療	重傷入院治療	死亡
			0	I	II	III	IV

危害の程度

- 5) リスク評価を行う際、R-Map に、バイアス（偏向）という要素を加味し、客観的に判断するやり方を探る。
バイアスとは、ある製品で怪我をした場合、被害者の属性や原因によって、リスクの程度を変化させるという考え方で、例えば、被害者が幼児の場合、防衛能力や怪我の程度は成人と異なるので、危害を重く捉える。

表 リスクバイアスの運用の一例

バイアス要素	内 容
① 誤 使 用 バイアス	意図する使用を逸脱した誤使用の場合、使用者に責任があるとしてリスクは通常マイナスされる。
② 弱 者 バイアス	被害者が子供等の弱者であるときは、リスクは通常プラスされる。
③ メディアバイアス	メディアや SNS 上等で話題になったときは、その内容次第でリスクはどちらの方向にも働く。
④ 長期使用バイアス	製品寿命を超えた使用の場合は、使用者の管理責任があるとしてリスクは通常マイナスされる。
⑤ 自己責任バイアス	使用者が常識的に求められるリスク回避策をとらなかった場合は、自己責任であるとしてリスクは通常マイナスされる。
⑥ 技術方策バイアス	他社の同時期に発売された同等製品と比較して安全性能が劣り、原因が保護方策よる場合は技術的欠陥として、リスクは通常プラスされる。

【研究対象Ⅲ】流通視点で見る消費者安全対策

流通事業者は、図1のようにメーカー（製造事業者）とユーザー（消費者）を仲介する位置づけにあり、相互の代弁者として安全に関するコミュニケーションにおいて、非常に重要な役割を担っています。

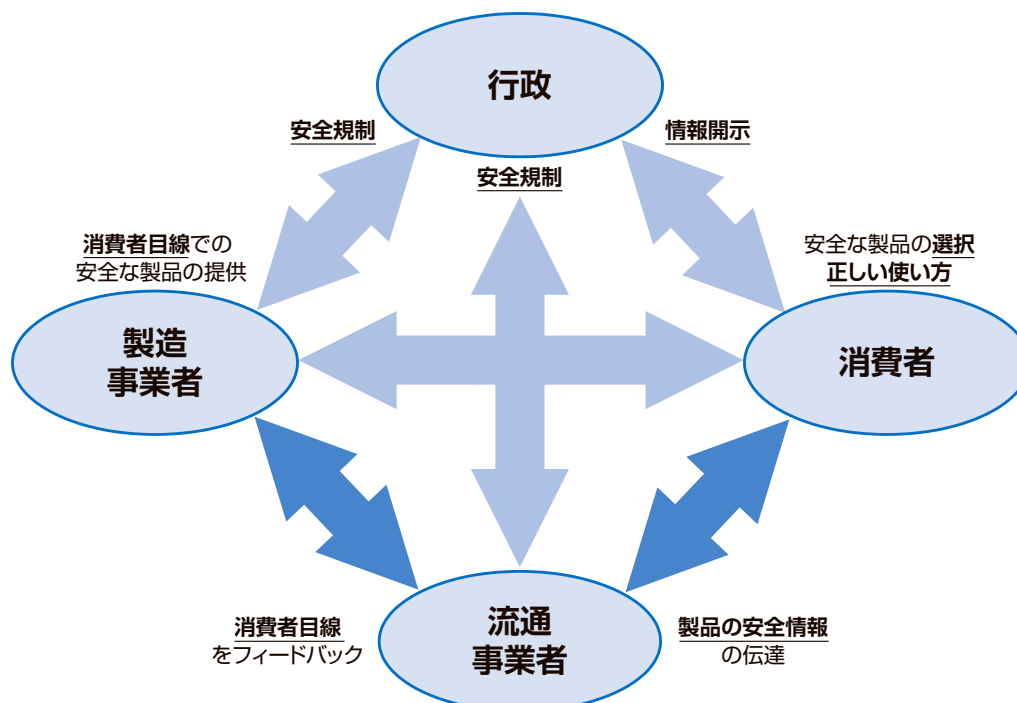


図1 安全に関するコミュニケーションの全体像

例えば、図2のようにメーカー提供の取扱説明書などの“使用上の情報”や、VOC（お客様の声）などから得られる情報も含めた“残留リスク”をユーザーに伝えるコミュニケーションがあり、またVOCからの情報も含めて、メーカーに対して仕入れ時の安全な商品の選択や安全への追加要求を行うコミュニケーションがあります。

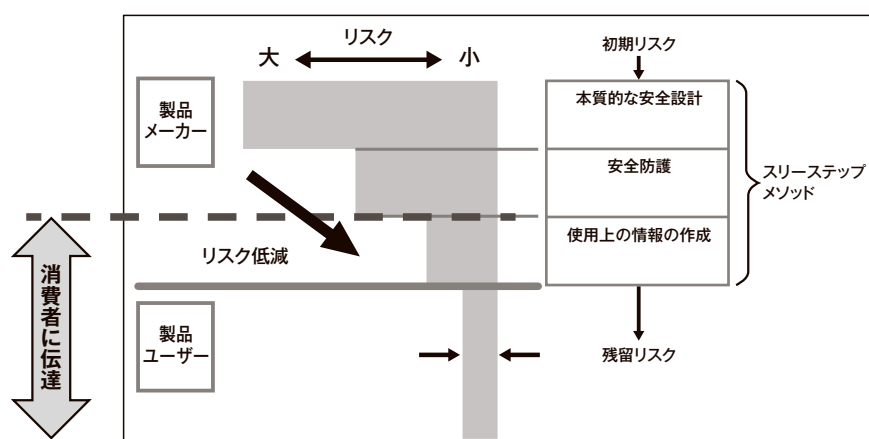


図2 流通事業者が消費者に伝えること

流通事業者の方からは、これらのコミュニケーションにはリスクアセスメントが有効なことは理解できるが、商品の技術的なことが判らない、取り扱う商品が多い、などのお悩みを耳にします。一方で、例えばVOCが集まるという特徴により、ユーザー目線での安全性に関しては、メーカーよりも把握しやすい有利な位置づけにあると考えられます。

メーカーのように技術的に詳しくなくても、これらの情報をリスクとして正しく把握して伝えることができるようになれば、安全に関するコミュニケーションをより有効にすることができます。そのためには、まず、具体的にリスクアセスメントの考え方を知ることが、たいへん役に立ちます。

社内では系統的なリスクアセスメントを行う機会は少ないのではないのでしょうか。まずは、研究会に参加いただき、実践的にリスクアセスメントに触れてみませんか。様々な形態の流通事業者がありますが、リスクを正しく把握する考え方を知れば、それぞれの事情に応じた取り組みができると思います。一緒に取り組んでいきませんか。

参考：関連セミナーのご案内

◆リスクアセスメント入門コース

参加費 一般・賛助会員とも5,000円(税抜)

【開催日程】 第1回：2019年4月19日(金) 第2回：2019年7月29日(月) 会場：東京・日科技連 東高円寺ビル

時 間	科 目	主要内容
13:00～17:00	リスクアセスメント概論(1)(2)	リスクアセスメントの基本、R-Map 手法の特徴 R-Map 関連手法の紹介、R-Map を使ったリスクの評価方法 開発段階の事例、市販後の事例、流通事業者の対応 など
	安全性事業の紹介	日科技連が開催する製品安全・リスクアセスメント等に関する 研究会・セミナーの紹介
	質疑応答	—

◆リスクアセスメント実践コース

参加費 一般45,000円(税抜)／賛助会員40,000円(税抜)

【開催日程】 第1回：2019年7月30日(火)～31日(水) 第2回：2020年1月23日(木)～24日(金) 会場：東京・日科技連 東高円寺ビル

時 間	科 目	主要内容
1日目 9:30～17:30	リスクアセスメント概論、R-Map によるリスクの見える化	リスクファインディング、リスクの見積もりとリスク低減、 R-Map とセーフティモジュール法
	リスクアセスメントによるハード/ソフトに起因する事故の未然防止	PSPTA 法によるリスクアセスメント、事例紹介、演習
2日目 9:30～17:00	リスクアセスメント演習(Ⅰ)(Ⅱ)	HHA 法によるリスクアセスメント、事例紹介、演習
	リスクアセスメントによる誤使用等、使われ方に起因する事故の未然防止	

◆リスクアセスメントエキスパートコース

参加費 一般45,000円(税抜)／賛助会員40,000円(税抜)

【開催日程】 第1回：2019年9月11日(水)～12日(木) 第2回：2020年2月17日(月)～18日(火) 会場：東京・日科技連 東高円寺ビル

時 間	科 目	主要内容
1日目 9:30～17:30	危害シナリオの抽出と記述 リスク低減の見積もり IoT 機器の安全確保 グループ演習(Ⅰ) グループ演習(Ⅱ)	PSPTA、HHA の危害シナリオ抽出と記述 確率計算によるリスク低減の見積もり 各種危害防止のための基本的要件 危害シナリオの作成・発表・相互レビュー リスク低減量の見積り・発表・相互レビュー
2日目 9:30～17:00	PSPTA によるリスクアセスメント HHA によるリスクアセスメント グループ演習(Ⅲ) グループ演習(Ⅳ)	PSPTA の作成およびレビューのポイント HHA の作成およびレビューのポイント PSPTA の作成・発表・相互レビュー HHA の作成・発表・相互レビュー

◆リスクアセスメントによるリコールマネジメントセミナー

参加費 一般25,000円(税抜)／賛助会員20,000円(税抜)

【開催日程】 第1回：2019年8月21日(水) 第2回：2020年1月22日(水) 会場：東京・日科技連 東高円寺ビル

時 間	科 目	主要内容
10:00～12:00	法規制(日本と欧米)、判定フローと措置の選択	重大事故報告やリコール報告に関わる制度 法規制による判断と自主判断について
13:00～17:00	消費生活用製品の判断事例、バイアスを応用した医療機器 の事例分析、リコール判断のケーススタディ、質疑応答	国内における判断事例と欧州における現状、日米事例の上位概念と消 費生活用品への展開、事例による演習

◆製品安全技術セミナー「基礎コース」

参加費 一般23,000円(税抜)／賛助会員18,000円(税抜)

【開催日程】 第1回：2019年7月2日(火) 第2回：2019年9月26日(木) 会場：東京・日科技連 東高円寺ビル

時 間	科 目	主要内容
9:30～11:30	製品安全技術の基礎、事故調査技術の基礎	製品安全活動において理解しておくべき基礎知識、必要な情報や技術 事故調査の目的と手法、事故の根本原因と是正処置
12:30～17:00	家電製品・IT機器、ヘルスケア製品から学ぶ安全規格と 安全適合性評価、 ハードウェア、ソフトウェアの安全確保の基礎、 質疑応答	関連する安全規格、安全規格では判断が困難な事例 リスクアセスメントと安全規格適合性評価の上手な組み合わせ 安全達成の考え方、設計基準の考え方、ハザード分析技法、 ハードウェアによるリスク低減、ソフトウェアによるリスク低減

◆製品安全技術セミナー「スキルアップコース」

参加費 一般25,000円(税抜)／賛助会員20,000円(税抜)

【開催日程】 2019年9月27日(金) 会場：東京・日科技連 東高円寺ビル

時 間	科 目	主要内容
9:30～12:30	組織への展開：製品安全審査(PS レビュー)、導入のポイント 誤使用問題をヒューマンファクター技術で解決してみよう	開発プロセスでの位置づけ、設計審査と製品安全審査、 記録文書の様式例、人材育成、合理的に予見可能な誤使用、 ヒューマンエラーへの対処法、リスク認知のバイアス
13:30～17:00	【ケーススタディ】誤使用事故防止のケーススタディ、質疑応答	実例を参考にした事例演習

◆PS/PL マネジメントコース

参加費 一般47,000円(税抜)／賛助会員 40,000円(税抜)

【開催日程】 2019年5月27日(月)～28日(火) 会場：東京・日科技連 東高円寺ビル

時 間	科 目
1日目 9:30～17:30	製造物責任(PL)：PL 法理論、主要各国のPL 判例と訴訟防衛策、社内システムにフィードバックするための判例事例
2日目 9:30～17:00	製品安全(PS)：マネジメントの概要、PS マネジメントシステムの構築

参加概要

■活動期間 2019年5月～2020年3月(年9回)

■開催日程	第1回 2019年 5月 24日 (金)	第6回 2019年 11月 22日 (金)
	第2回 6月 21日 (金)	第7回 2020年 1月 9日 (木) 特別講演会
	第3回 7月 25日 (木) 特別講演会	第8回 2月 7日 (金)
	第4回 9月 6日 (金)	第9回 3月 13日 (金) 成果発表会
	第5回 10月 18日 (金)	

■会場 一般財団法人 日本科学技術連盟 東高円寺ビル 研修室 (東京都杉並区高円寺南 1-2-1)
東京メトロ・丸ノ内線「東高円寺」駅下車・徒歩 5 分

■会費 一般・会員ともに 115,000 円(税抜) / 1 名
第 1 年度リスクアセスメント実践研究会からの継続参加者 100,000 円(税抜) / 1 名
※ 2019 年度は消費税転嫁対策措置法の総額表示義務の特例により税抜価格を表示させていただいております。消費税増税が実施された場合は、10%の消費税を税抜価格とあわせて請求させていただきます。

研究会メンバー特別特典 シンポジウム、セミナーへの「ご優待券」を進呈！

- ① 2019 年度「リスクアセスメント入門コース」へのご優待 (参加費無料)
- ② 2019 年度「信頼性・安全性セミナー」へのご優待 (半額でご参加いただけます)
- ③ 2019 年 7 月 18 日 (木)～19 日 (金)に開催する「信頼性・保全性シンポジウム」へのご優待
※ 参加費 38,000 円(税抜/1 名)のところ→特別価格 18,000 円(税抜/1 名)

■申込方法 参加申込書に必要事項をご記入のうえ、E-mail、FAXまたは郵送で下記宛にお申込みください。
開催の約 1 ヶ月～3 週間前に「開催のご案内」「参加券・請求書」等を送付いたします。

一般財団法人 日本科学技術連盟 セミナー受付担当
〒163-0704 東京都新宿区西新宿 2-7-1 小田急第一生命ビル 4F
TEL : 03-5990-5849 FAX : 03-3344-3022 E-mail : regist@juse.or.jp

研究会お申込みに関するキャンセルの取扱いとお願い

研究会にお申込み後、ご本人の都合が悪くなった場合には、原則として代わりの方のご参加をお願いします。また、止むを得ない事由により、お客様の都合でキャンセルされる場合には E-mail または FAX にて研究会第 1 回例会ご参加の前に連絡をお願いいたします。その際、連絡いただきました日にちにより、次のキャンセル料をご負担いただきます。

- 【キャンセル料】 開催日の 7 営業日前～2 営業日前のキャンセル ⇒ 参加費の 20%
開催日の 1 営業日前 17:00 までのキャンセル ⇒ 参加費の 50%
開催日の 1 営業日前 17:00 以降のキャンセルまたは事前のご連絡がなかった場合 ⇒ 参加費の 100%

■内容についてのお問合せ 最新情報は日科技連ホームページをご覧ください。 <http://www.juse.or.jp/>

一般財団法人 日本科学技術連盟 リスクアセスメント実践研究会担当
TEL : 03-5378-9850 FAX : 03-5378-9842 E-mail : re-group@juse.or.jp

2019年度(第2年度) 日科技連 リスクアセスメント実践研究会 参加申込書

●参加者 ☆特別講演、成果発表会のみのご参加の場合は参加される月を○で囲んでください。

記入 不要	参加者名(ふりがな)	所属・役職・E-mail	☆特別講演、成果発表会 のみの参加申込
		所属・役職 : ----- E-mail :	7月、1月、3月
	本研究会で取り組んでみたい・ 興味のあるテーマ		

●連絡担当者(お申込み受理後「開催通知」をお送りする方)

会社名	事業所	TEL
所属・役職	担当者名	FAX
所在地	〒	会員番号
E-mail		
参加費	研 究 会	一般・会員ともに 115,000円(税抜) × 名= 円
		継 続 メ ン バ ー 100,000円(税抜) × 名= 円
	特別講演会・ 成果発表会のみ	1回につき 10,000円(税抜) × 回× 名= 円

※お支払いにつきましては、お申込み受理後、請求書と開催通知を併せてお送り致しますので、請求書発行後2ヶ月以内にお支払いください。
※ご記入いただきました企業・組織および個人情報、研究会の運営、参加申込み受付処理ならびに日科技連からの事業情報で送付のために使用させていただきます。